

古民家再生の会

「古き良き」を現代へ

そしてその先へ

再び日本を見つめる

日本の住宅は明治以降、西欧の近代技術や機能主義の思想によって急速に進歩発展し、かつての暗さや不便さはすっかり解消され、明るく便利になりました。その反面、非効率に思われるものは捨て去られることが多くなり、今日の住宅は、画一的に商品化された「モノ（単なる消費材）」となつてしまい、数十年でその役目に合わなくなると取り壊されています。この原因は、新しいものに進歩発展を求め効率化させることと、精神の抛りどころを大切にすることとの両立がなされてこなかったことに起因しているのかもしれない。

古民家再生に向けて

日本は良質の木材に恵まれ、木材の性質や美しさを見極め、柱や梁をそのまま意匠とする真壁工法が生まれました。真壁工法は木材をよく乾燥させ、日本人の美意識ともあいまって、長い歴史の中で世界に誇れる日本の伝統構法がつくり上げられてきました。古民家には、地域の自然や気候風土に育まれ、生活や行祭事、礼儀作法に密接に結びついた美しさがあります。哲学者の和辻哲郎は「一国の美しさと文化は風土に根ざす。」と言っています。古民家は、正に日本人が創造した日本の住文化の傑作であり、「地域の証明書」と言われ、日本人の魂の抛り所となっています。

次の百年へ

環境の保全再生と地球温暖化の問題を考えると、現代の快適な生活を維持しながら、建築の長寿命化を叶える省エネ・安全・健康な建築が求められる時代になりました。古民家には現代が求めるそれらの要求を取り入れながら、次の百年へ受け継いでいける大きな包容力があると考えています。一般的に行われているリフォームと古民家再生は根本的に違います。効率化を優先させるようなリフォームは、その場しのぎで見苦しいところを覆い隠し、構造補強をすることも少なく、まったく別な建物にしてしまいます。古民家再生はまず次の百年に繋げるために、基礎から軸組みに至るまで構造的補強を行い、更に当初の姿の歴史性や思いの出の痕を、過去から現在、そして未来へと繋がるように残して、その建物でしか出来ない改修を行うことです。それはかつての職人にとっては難しい事ではありませんが、現代では伝統と現代に通用する豊富な知識と高い技術力でしか実現はできません。また古民家などの歴史的な建物を残していくためには、それらの技術に精通する職人が不可欠であり、またその技術を現実の仕事を通して受け継いでいく必要があります。

私たちは、古民家再生を社会啓発して、職人世界の復活となる伝統構法の伝承と日本文化の再認識をし、限りある文化資産である古民家の保存再生の研究を行っています。また、次の百年へ受け継がれる「平成の民家づくり」を創造し、啓蒙と実践を通して、古民家再生に取り組んでいます。

